

第2部 みんなでつくる魅力ある学校

I 生涯にわたり学び続ける基礎を培う

1 これからの時代に必要な力を育み、わかる喜びにつなげる授業の推進

(1) 学力向上関係事業の改善

児童生徒の学力向上をより一層図るため、柏市学力向上プランの検証・見直しを行っています。

また、柏市学力向上プラン推進委員会からの提言を施策の改善に反映させ、学力向上プランのPDCAサイクルの確立を図っています。

平成24年度末には、柏市学力向上プラン推進委員会からの提言を基に柏市学力・学習状況調査を実施し、その結果に基づき、モデル校を設定して児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育むための取り組みを支援する「学びづくりフロンティアプロジェクト」を計画立案しました。

平成25年度から平成27年度までを対象期間とする第一次校（2中学校区6校）及び平成27年度から平成29年度までを対象期間とする第二次校（2中学校区7校）の取り組み支援が終了し、平成30年度は、平成28年度開始の第三次校（1中学校区3校）、平成29年度開始の第四次校（2中学校区7校）及び平成30年度開始の第五次校（2中学校区6校）からなる計5中学校区16校が参加するプロジェクトとして、各校の取り組みを支援しました。

加えて、学力学習状況調査の分析結果を基に、算数科における児童のつまづき解消を目的とした授業を共有し指導方法を改善する取り組みとして、9小学校を実践校に指定し「算数科授業力向上事業」を開始しました。

(2) 教育課程の編成・実施に対する支援

新学習指導要領に基づく教育課程が各学校において適切に編成・実施されるよう、教務主任研修などを通じた指導助言及び支援を行いました。また、道徳の教科化や外国語教育の教科化に向けた取組など、新学習指導要領への移行に対応した教育課程を各学校が適切に行えるよう、カリキュラム・マネジメントを要とした『柏市学校教育指導の指針』を作成しました。

(3) 学校図書館及びICTを活用した授業に対する支援等

①学校図書館活用の推進

柏市では「確かな学力」と「豊かな心」の育成をめざし、学校図書館を活用した教育を推進しています。

平成15年度より、市立小中学校に対して学校図書館指導員の派遣を実施し、読書活動の推進と授業における学校図書館活用の推進に向けた支援を行っています。平成21年度からは、学校図書館指導員を市の臨時職員とすることで、さらに指導力の向上と授業支援の充実を図っています。

また、学校図書館担当教諭及び指導員への支援を強化するため、平成17年度からは学校図書館アドバイザー制度を、さらに、平成27年度からは学校図書館コーディネーター制度を導入し、全校への巡回指導、モデル授業例の公開等を通じ、授業における学校図書館の活用促進を図っています。さらに平成18年度より、学校図書館ネットワーク事業による学校図書館蔵書検索システムを稼働し、相互貸借を実施することで、特色ある学校図書館づくりを推進し、読書量の増加を図り豊かな心の形成に寄与するとともに「調べ・考え・まとめる」情報活用能力の育成を図っています。

■学校図書館活用・整備状況（平成31年3月31日現在）

区分	蔵書冊数	充足率	一人当たり蔵書冊数	一人当たり平均貸出冊数	指導員年間派遣日数
小学校	482,224冊	115.2%	28.5冊	62.84冊	164～205日
中学校	263,066冊	102.9%	31.8冊	8.94冊	123～164日

※充足率は学校図書館整備基準による。

②効果的なICT(*)活用の推進

ICTを用いた指導を行い、児童生徒の理解を助けたり、児童生徒自身がICTを活用して学びを深めたりするような、わかりやすい授業の実現に努めています。

民間のコンピュータ取扱能力等の高い者を、柏市内の公立小・中・高等学校及び教育委員会に配置し、インターネットやコンピュータを活用した授業の支援、研修、教材作成のためのアドバイザーとして活用し、柏市における情報教育を支援しています。

* ICT・・・Information and Communication Technology の略。パソコンや実物投影機、電子黒板、プロジェクターなどのハードウェアやソフトウェア、インターネットなどを活用する情報通信技術のことを指す。

(4) 学校図書館及びICTの活用に係る教員の力量向上

柏市では、学校図書館活用に係る教員の力量向上のため、年に3回の司書教諭研修会を実施しており、学校図書館活用授業のあり方を学んだり、日常の学校図書館活用方法について情報交換を行ったりしています。

また、各教科のどの単元で学校図書館を活用できるかを示した「パスファインダー」を学校図書館指導員が作成しており、多くの教科で学校図書館を活用した授業を行い、学力向上を目指しています。

ICTを活用した指導力の向上を図る目的で、教職員研修を実施しています。長期休業期間中に、授業活用や校務支援、情報モラルに関する情報活用研修講座を14回実施しています。

■授業中にICTを活用して指導できる教職員の割合の推移（平成31年3月31日現在）

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	80.9%	80.4%	87.7%	89.2%	91.1%	91.2%	79.1%
中学校	55.4%	60.9%	66.1%	59.4%	77.7%	79.2%	65.8%

※文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より（調査項目が平成30年度より「ICTを活用して授業を行える」から「ICTを児童生徒が活用できるような授業を行える」へ変更になりました。）

(5) 環境教育の推進

学校と家庭、地域の連携により、自然体験の場や機会を充実させ、「自然や地域との関わり」の学習を通じて、豊かな人間性を育む教育を推進しています。また、環境保全に対する意欲の増進を図るため、児童生徒の発達段階に応じて、身近な地域の自然環境や環境問題を捉えながら、問題解決的な学習や体験を取り入れた学習に取り組んでいます。

(6) キャリア教育の推進

自立心や勤労観、職業観を養うために小学校段階からのキャリア教育を推進しています。各学校では、キャリア教育の全体計画や年間計画を作成し、職場体験や見学、企業家による授業など、様々な取組を行っています。教育委員会でも各学校の取組を支援するため、児童生徒の不測の事故等に対応できる保険に加入しています。

(7) 国際理解に関する教育の推進

①外国語指導助手（ALT）（*1）、小学校外国語活動支援員（*2）の派遣

柏市では、児童生徒のコミュニケーション能力の育成と国際化に対応した特色ある教育の進展を図るため、ALTを市内の全小中学校への配置を行っております。また、小学校外国語活動支援員についても全小学校への配置を図っています。

平成30年度は、市内の小学校外国語活動や中学校における外国語教育の充実に努めるため、22名のALTと18名（19校）の小学校外国語活動支援員を配置し、これまで以上に緊密なチームティーチングによる効果的な授業を目指しています。

*1 外国語指導助手（ALT）・・・Assistant Language Teacher の略。主に外国語教育の充実に図るため、担任や外国語担当教員等の助手として、市費により全小中学校に配置する外国人指導者。

*2 小学校外国語活動支援員・・・小学校外国語教育の充実に図るため、担任や専科の補助として、市費により小学校に配置する英語が堪能な日本人。

②姉妹・友好都市との交流活動

柏市は、アメリカのトーランス市、グアム、並びにオーストラリアのキャムデン町と姉妹都市としての、また中国の承德市と友好都市としての関係にあり、これまでに、市内のいくつかの小中高等学校が、独自に姉妹校、友好校として交流活動を行っています。

市立柏高校においては、姉妹校2校（アメリカ・トーランス北高校、オーストラリア・シェントンカレッジ高校）及び友好校1校（中国・承德第一中学校）と相互の交流研修を行いました。

また、承德市、トーランス市、グアム、キャムデン町からの青少年訪問団が、小中学校を表敬訪問をしたり、学校で一日体験を行うなどして、市内の子どもたちとの交流を深めています。

■姉妹校、友好校の状況（平成31年3月31日現在）

区分	締結日	学校名	姉妹校・友好校
姉妹校	昭和 55. 3. 15	柏第一小学校	アメリカ・トーランス市ジョセフアーノルド小学校（幼稚園から5年生まで）
	昭和 55. 3. 15	旭小学校	アメリカ・トーランス市アダムス小学校（幼稚園から5年生まで）

	昭和 55. 10. 10	酒井根小学校	アメリカ・トーランス市アーリントン小学校 (幼稚園から5年生まで)
	平成 2. 2. 10	市立柏高校	アメリカ・トーランス市トーランス北高校
	平成 14. 7. 31	市立柏高校	オーストラリア・西オーストラリア州パース市シェン トンカレッジ高校
友好校	昭和 63. 10. 5	旭小学校	中国・承德市実験小学校
	昭和 63. 10. 5	中原中学校	中国・承德市承德第二中学校
	平成 7. 10. 5	市立柏高校	中国・承德市承德第一中学校

(8) 学校図書館の学習センター・情報センター化

市内小中学校の学校図書館について、学習センター・情報センターとして図書、新聞、雑誌、インターネット等の複数メディアでの調べ学習ができる環境を整備し、各学校へ活用方法等を指導しました。また、平成31年度末までに、無線LANのアクセスポイントを63校全校に設置しました。

(9) ICT機器等の整備充実

国の調査では、授業で日常的にICT機器等を活用している学校は学力学習状況調査の結果が良い、という報告がされています。

このため教育委員会では、ICT機器活用の日常化という観点から、普通教室のICT環境の充実に取り組んでいます。

まずハードの面では、プロジェクタの常設化と配線の削減を計画的に進めました。例えば平成24年度からのコンピュータプレイスにおいては、小学校の全ての普通教室に壁据付型電子黒板機能付きプロジェクタ、中学校の全ての普通教室に天吊り型プロジェクタを設置しました。これによりプロジェクタ使用時の準備作業の軽減を図り、また露出するケーブルを削減することで児童生徒が安全に使用できるようにしました。

またソフトの面では、ICTを活用した授業の実践例の収集や、授業で活用できるデジタルコンテンツ等の整備を進め、いずれも教育研究所ホームページから閲覧できるようにしているほか、平成25年度には社会科副読本のデジタル化に取り組み、平成26年度から全校に配信しています。

(10) 子どもたちの学習活動を支える人的支援

チームティーチングによる授業補助や個別の学習支援などを行うことにより、児童生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導の展開を支援します。平成30年度は、小学校に52人、中学校に19人のサポート教員を配置しました。

2 発達や学びの連続性を踏まえた教育の推進

(1) 幼児教育研究の充実

市内全幼稚園・市内全保育園・全認定こども園と連携した研究体制により、幼児の健やかな成長のための運動能力及び体力向上に向けた研究に取り組んでいます。

遊びを充実させていく中で楽しみながら進んで運動しようとする意欲を育てることに重点を置き、園内の環境設定・保護者への啓発方法を各園で工夫しました。また、運動遊びや指導方法を伝える運動遊び講習会を幼保こ小学校の教員を対象に開催したところ、多くの教諭および保育士が研修に参加しました。

また、共同研究の集大成として、研究発表会を開催し、各園で行った運動能力の測定結果と園や家庭での生活調査の相関関係を報告したり、各園での特色ある運動遊びの実践を発表したりしました。幼児教育関係者だけでなく、幼児を持つ保護者を対象に、幼児教育に関する啓発も行いました。

柏市では、幼児教育の振興・充実のために、柏市幼児教育振興審議会を設置しています。委員は、さまざまな立場から幼児教育に関わる各機関から委嘱されており、本市における幼児教育の現状を情報交換するとともに、今後の幼児教育のあり方について審議しています。

平成30年度は、柏市幼保こ小連絡協議会、柏市幼保こ小連携研究推進委員会及び柏市幼児教育共同研究などの幼児教育関係の取組について報告するとともに、質疑応答を行いました。更に、これまでの成果・課題を振り返るとともに、幼保こ小の接続の在り方や、今後の共同研究の在り方などをテーマとして話し合いました。

(2) 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の連携の推進

柏市の園児や児童の実態に基づいた教育課題を明らかにし、発達や学びの連続性を踏まえた連携を推進することにより、幼児教育と小学校教育双方の質の向上と子どもたちのより良い成長を目指します。

幼保こ小連絡協議会が中心となって連携の在り方を協議し、それをもとに地区別連絡会（市内9地区）を開催して情報交換や相互参観、交流会などの充実を図っています。

幼保こ小連携研究委員会では、幼稚園・保育園・認定こども園の生活から小学校生活への円滑な連携を目指して作成した「柏市版接続期カリキュラム」並びに保護者対象の啓発資料「小学校はてなパンフレット」の内容を見直し、普及を図りました。家庭教育支援への視点から、今後も他部署との連携を強化します。

(3) 小学校と中学校の連携の推進

柏市では、平成22年度から24年度の3ヶ年、4中学校区で小中連携教育の研究指定を行い、小学校から中学校に円滑に接続できるよう調査・研究を進めてきました。

その成果を踏まえ、平成25年度からは全小中学校で小中連携教育に取り組み、中学校区ごとの「めざす子ども像」を共有しています。各中学校区の特色を生かし、教職員や児童・生徒、地域との交流が行われています。平成29年度から平成30年度まで、教務主任と研究主任を対象とした合同研修を行い、中学校区の連携をより意識した取組を行いました。

(4) 魅力ある市立高校教育の推進

市立柏高等学校は、昭和53年4月の開校以来、生徒の多様な個性に応じた教育内容の工夫に努め、特色ある学校づくりを進めています。

平成10年度に開設したスポーツ科学科においては、地域スポーツの発展に貢献する人材の育成を目指しています。

平成20年度入学生より、制服を新たにし、また平成21年度入学生からは、学年制から単位制に移行し、柏市が中核市へ移行したことに合わせて、普通科の通学区域も市内から市内の県立高校と同じく変更しました。

また、平成4年に開設した国際科を平成22年度卒業生をもって閉じ、普通科の中に国際教養クラスや総合進学クラスなど特色あるクラスを新設し、個々の生徒の学習希望に添えるよう教育環境の充実に努めています。

生徒の語学力の向上と国際理解のため、普通科国際教養クラス2年生のアメリカ・トーランス北高校への語学研修に加え、平成13年度からはオーストラリア・パース市のシェントンカレッジ高校や中国の承德第一中学校との交流も行っており、多くの生徒が海外で研修を行っています。

部活動については、各部とも積極的に活動しており、吹奏楽、バスケットボール、バレーボール、野球、サッカー、ソフトテニス、陸上、柔道など、ほとんどの部活動が県、関東、全国の各種大会で常に優れた成績を取っています。

■卒業生の進路状況（平成31年3月31日現在）

区分	大学	短大	専修・ 各種学校	就職	留学	その他	卒業生数計
人数	141人	14人	109人	43人	4人	5人	316人
割合	44.6%	4.4%	34.5%	13.6%	1.3%	1.6%	100.0%

II 安心・規律・活気のある学び合いの場をつくる

1 自他を尊ぶ教育の推進

(1) 道徳教育の充実

柏市では、新学習指導要領移行期のため、平成30年度の様々な研修の場で、「特別の教科 道徳」に向けた研修を行いました。道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図るために、学校の実態に応じた道徳の全体計画及び各学年の指導計画（4つの主項目「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を含む）の作成・見直しを行っています。また、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間など、全ての教育活動を通して道徳教育の充実を図っています。教材としては、小学校では道徳の教科化に伴い教科用図書を使用し、中学校では副読本を主とし「私たちの道徳」なども活用しています。また各校独自の教材開発にも努めています。

道徳の指導は、学校、家庭、地域社会の三者それぞれが役割を果たし、それらの間に一貫した方針が保たれることによって、その成果をあげることができます。道徳の授業を平成17年度以降毎年全校で公開し、参観者から意見を伺うことにより、教師の指導力の向上を図るとともに、学校や家庭・地域社会が一体となって豊かな心の教育に係る機運を高めるように指導しています。また、従来これらが個々に担っていた社会体験、奉仕体験、自然体験による教育力を、学校がコーディネートし、より効果を高めていくことができるよう推進しています。

(2) 生徒指導体制の充実

生徒指導は、全ての児童生徒の人格をよりよく発達させ、学校生活がより充実したものになることを目指すものです。各学校における生徒指導では、児童生徒との共感的人間関係を基盤として、児童生徒理解の上に立ち、発達に即した指導・援助を行っています。特に、教師が児童生徒一人一人に寄り添う指導をこころがけ、子どもにとって「居場所」のある充実した学校生活を送れるよう生徒指導に取り組んでいます。

■市内中学校卒業生の進路状況（平成31年3月31日現在）

卒業生数	公立高校		私立高校		進学者	進学率	高専 国立 技術等	専修各 種学校	特別 支援 学校	就職	家事 従事 その他
	県内	県外	県内	県外							
3,351人	2,155人	25人	728人	337人	3,245人	95%	19人	23人	39人	3人	22人

(3) いじめ対策の推進

いじめ問題に関しては、絶対に許されないことととらえ、定期的に全校児童生徒対象のアンケート調査を実施し、未然防止・早期発見・早期対応を目指しています。

■平成30年度いじめの状況 ※（ ）は平成29年度数値

	認知校数	認知件数	解消済	取り組み中	その他
小学校	42 (42)	3,078 (2,570)	2,847 (2,324)	231 (245)	0 (1)
中学校	21 (20)	707 (646)	563 (567)	144 (79)	0 (0)
合計	63 (62)	3,785 (3,216)	3,410 (2,891)	375 (324)	0 (1)

(4) 人権尊重教育の推進

差別をしない、偏見を持たないという人権尊重の理念は、人間にとって欠くべからざるものであることを認識し、昭和57年2月に「柏市人権尊重教育基本方針」を定めました。昭和62年3月には「柏市人権尊重教育基本方針及び重点施策」を打ち出し、これをもとに児童生徒への人権尊重教育を進めています。

柏市では、全小中学校の人権教育担当者を対象に研修会を開催し、教職員の人権意識向上と指導力の向上に努めています。

2 一人一人に応じた教育の推進

(1) 教育相談体制の充実

教育相談は、学校及び教育委員会の各機関で随時行っています。児童生徒本人とその保護者・教職員、幼児の保護者が抱えている教育上の様々な悩みごとの相談に応じ、面接や電話相談を通して、解決の手がかりを見つけたり、適切な指導のあり方について助言をしたりしています。

平成17年度からは市内全中学校に千葉県スクールカウンセラーが配置されています。また平成19年度からは柏市独自に小学校9校を拠点としてスクールカウンセラーを配置し、平成25年度からはこの統括的な役割や、「突発的」「重篤な」「緊急を要する」等、児童生徒の問題（いじめ等）に迅速に対応し、的確なコーディネート及び心理相談を行う職として、柏市スクールカウンセラースーパーバイザーを設置し、児童生徒や保護者の相談活動の充実を図っています。

また平成16年度からは、心理学等を学ぶ大学生を中学校に派遣するメンタルフレンド制度を実施しています。

児童生徒課では、主として小学生・中学生の教育に関する相談事業を実施しています。

相談機関は柏市教育委員会教育支援室内にあり、電話相談を担当する教育相談専門指導員2人と面接相談を担当する心理相談専門指導員7人が交代で相談業務を行っています。

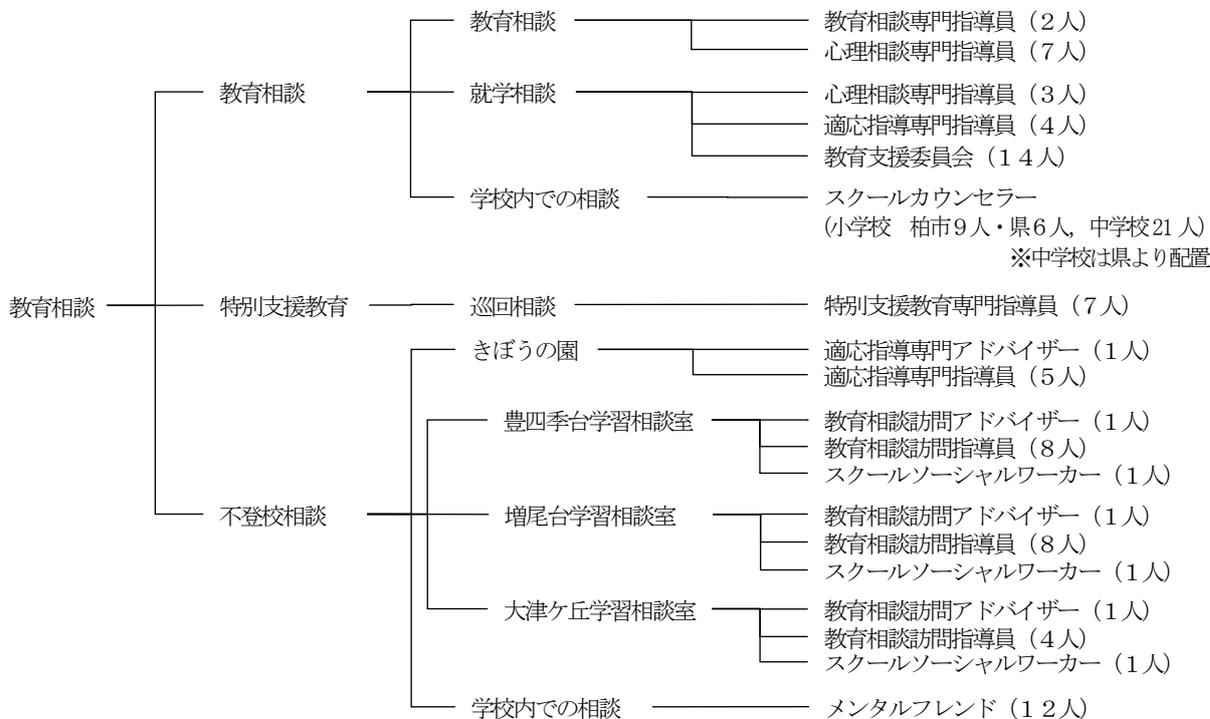
また、就学相談については、幼児・児童・生徒の適切な就学のために、調査・相談及び保護者への支援、各学校への指導支援を行っています。ウェルネス柏内に就学相談窓口を設けたことにより、こども発達センターとの連携も密になり、幼児期から学齢期へのスムーズな相談体制が一層可能になりました。

なお、市内の相談機関等の相談状況を把握し、解決に向けた情報の共有化及び連携体制の強化を図るため、学習相談室全体会議を月1回程度実施しています。

平成23年6月に公布された『柏市自殺対策推進条例』の中で、教育機関の責務として「児童、生徒及び学生が心身ともに健康な生活を送り、及び自殺の防止等に関する理解を深めることができるよう、適切な措置を講じるものとする。」という点が挙げられました。これらの点を解決するため、平成23年度に柏市自殺予防連絡会議と、その作業部会として教育ワーキンググループ（平成26年度末までに9回実施）が設置されました。

平成25年度からは、ゲートキーパー養成講座を実施し、平成27年度までの3年間で全教職員が受講しました。平成29年度からは、『性の多様性についての理解と対応について』の研修を実施し、3年間で全教職員が受講予定です。

[平成30年度相談体系]



■ 教育相談の件数・内容等（平成30年度）

相談内容	一般 (教育支援室)	就学相談 (ウェルネス柏内)	不登校・園相談 (適応指導教室・学習相談室)	計
電話による相談	455件	1件	2,785件	3,240件
来室による相談	1,112件	951件	856件	2,919件
合計	1,567件	951件	3,641件	6,159件

■柏市教育委員会教育支援室内の教育相談における相談内容（就学相談を除く）

内容	件数（件）	内訳（件）			
		幼児	小学生	中学生	高校生・他
学業	271	1	196	73	1
交友	7		7		
いじめ	5		3	2	
教師不適応	32		28	4	
集団不適応	236	1	168	62	5
不登校・園	342	1	87	239	15
性格	444	3	335	105	1
非行一般	6		3	3	
身体	4		4		
進路	16	1	11	4	
親子関係	21		7	14	
子育て	26	1	20	5	
異性関係					
生活全般	8		4	3	1
その他	149	3	107	38	1
合計	1,567	11	980	552	24

（集計期間：平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

(2) 長期欠席対策の充実

30日以上欠席児童生徒の長欠率は、小学校・中学校ともに増加傾向です。特に小学校の増加が目立ちます。これらの状況に対応するため、不登校児童生徒支援事業として下記の取組を実施し、長期欠席児童生徒の学校復帰を支援しています。

①適応指導教室「きぼうの園」

「きぼうの園」は、何らかの要因により学校生活に適応できない児童生徒の学校復帰を目指して平成4年度に開設した施設であり、適応指導アドバイザー1人、適応指導専門指導員5人、計6人の交替制により運営しています。児童生徒個々に合った指導を行いながら、気持ちの解放や物事に挑戦する過程を通して集団生活・学校生活への適応を図り、在籍校に復帰できるように援助しています。児童生徒及び保護者の個別カウンセリング、学習の遅れに対する補習指導、自主的・主体的な活動への援助など幅広い働きかけを通して、登校時の不安を解消し、一日も早い学校復帰のために支援しています。

②学習相談室

平成13年度より学習相談室を設置しています。当初は柏第六小学校・増尾西小学校の2箇所でしたが、平成19年度からは大津ヶ丘第二小学校にも設置。現在、計3箇所で学習指導及び訪問相談を行っており、教育相談訪問アドバイザー3人、教育相談訪問指導員20人、スクールソーシャルワーカー3人、計26人により運営しています。

また、平成20年度から、スポーツ交流や学習相談室と適応指導教室の月例会議を実施し、児童生徒間の交流、指導員同士の情報共有・連携強化に努めています。

③あすなろキャンプ・自然体験教室

不登校児童生徒への支援策として、昭和54年度から「あすなろキャンプ」を実施しています。平成30年度は26名の児童生徒が参加しました。また、自然体験教室には16名の児童生徒が参加し、いずれも集団生活を体験させることにより、社会性を培い、自主性を身につけ、生きる力の育成につなげていくことを目標に実施しました。それぞれの体験活動が、参加した児童生徒の自信と心の成長につながっています。

■長欠（30日以上）児童生徒の状況（平成31年3月31日現在）

区分	長欠児童生徒総数	長欠率	不登校率	長欠理由別			
				病気	不登校	経済的理由	その他
小学校	269人	1.22%	0.46%	125人	101人	0人	43人
中学校	485人	4.89%	2.80%	173人	278人	0人	34人

(3) 特別支援教育に係る校内支援体制の整備充実

特別支援教育体制の整備充実に向けて、様々な取り組みを実施しています。

①「校内委員会」の設置・活用

特別支援学級在籍の児童生徒に加えて、通常の学級に在籍する支援が必要な児童生徒に対し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を設置して、一人一人の教育的ニーズを把握し、特性に応じた支援が充実するよう「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成するように推進しています。

②巡回相談の実施

平成18年度より、文部科学省の委嘱事業の一環として柏市独自の巡回相談を開始しました。平成20年度からは、教育研究所の事業として予算化し、特別支援教育専門指導員や指導主事を学校に派遣し、支援が必要な児童生徒に関する指導や助言、相談、保護者面談等を行っています。令和元年度より、児童生徒課へ担当が移管した後も事業として継続しています。

③特別支援教育に関する研修会の実施

- ・夏季研修講座 — 「一人一人のニーズを踏まえた教育の在り方」を市内幼稚園・保育園及び小中学校職員を対象に実施
- ・特別支援教育研修会 — 「一人一人のニーズを踏まえた教育の在り方」を校長・教頭・特別支援教育コーディネーターを対象に実施
「教育支援員の在り方」等を教育支援員対象に実施
「特別支援サポート教員の在り方」等を特別支援サポート教員対象に実施
- ・特別支援教育新任担当教員等研修 — 教育課程編成や児童生徒の指導方法等について年6回実施

(4) 教育支援員の適正配置

教育支援員については、各校の実情に即した適正かつ計画的な配置を推進しています。

■教育支援員配置状況（平成31年3月31日現在）

・小学校	41校	125名
・中学校	17校	24名
合計	58校	149名

(5) ボランティア団体の協力による日本語・教科学習指導

市内小中学校には、63名(平成31年3月31日現在)の日本語支援が必要な外国人児童生徒が在籍しています。柏市教育委員会は、『柏市帰国・外国人児童生徒日本語と学習支援の会』の協力を得て、初期日本語指導を行っています。

これは、外国人児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう、言語の面から支援するもので、経験を積んだ指導者が、各学校の要請に応じて学校に出向き、支援に当たっています。

初期日本語支援を終えた、授業を理解することが困難な外国人児童生徒に対して、放課後、学校において教科学習支援を行っています。また、土曜日に公共施設等で教科学習支援の学習会を行っています。

また、柏市教育委員会は学校とともに、該当児童生徒の個々に応じた学習指導方法や学校生活に適応する上での指導のあり方について、国際理解教育研修会の実施や適応指導、教育相談などの取り組みを通して、研究・研修を進めています。

3 健やかな体をつくる教育の推進

(1) 運動に親しみ、体力の向上を図る取り組みの推進

教科体育の充実と体育的活動の日常化を促し、児童生徒が運動に親しむ態度の育成と体力向上を図っています。

■体力・運動能力テスト（男子）平均値（市の数値は令和元年度実績，県・全国は平成30年度実績）

学年		握力 (kg)	上体おこし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトル (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール (m)
小5	市	16.92	21.04	34.85	43.28	54.52	9.04	158.23	21.67
	県	17.57	21.82	36.04	45.16	57.90	9.08	159.87	22.62
	国	16.90	20.72	33.62	43.94	56.85	9.19	155.43	23.51
小6	市	19.86	22.72	37.92	46.43	63.08	8.72	169.83	23.70
	県	20.96	23.70	39.23	47.94	65.73	8.64	173.23	26.26
	国	20.02	22.05	35.43	46.98	64.48	8.79	165.19	26.81
中2	市	28.05	27.60	45.35	52.03	91.33	7.86	200.75	20.55
	県	29.00	28.08	46.26	53.24	88.90	7.81	198.32	20.13
	国	29.75	28.08	43.95	53.45	89.93	7.80	199.64	21.29
中3	市	32.18	30.30	50.03	53.64	90.46	7.41	213.71	22.72
	県	34.05	30.52	50.95	55.82	95.08	7.40	213.47	22.81
	国	34.90	30.44	47.73	55.92	96.64	7.44	212.56	23.82

■体力・運動能力テスト（女子）平均値（市の数値は令和元年度実績，県・全国は平成30年度実績）

学年		握力 (kg)	上体おこし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトル (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール (m)
小5	市	15.88	20.47	35.69	40.96	40.77	9.48	149.17	13.12
	県	17.23	20.90	40.22	43.19	47.51	9.32	153.84	14.26
	国	16.71	19.35	37.90	41.40	45.54	9.45	147.45	14.40
小6	市	18.97	21.93	39.91	45.02	50.42	8.95	159.87	14.81
	県	20.32	22.18	43.24	45.23	52.49	8.96	161.87	16.10
	国	19.58	20.44	39.96	44.35	50.94	9.12	156.68	16.33
中2	市	23.26	24.53	46.63	47.04	61.94	8.67	167.10	12.73
	県	24.09	25.17	48.36	47.88	63.09	8.60	172.66	12.98
	国	24.22	23.96	46.25	47.73	61.52	8.66	172.06	13.35
中3	市	24.96	26.03	51.02	47.03	58.80	8.66	173.19	13.95
	県	25.82	26.63	52.17	49.05	63.50	8.49	177.51	14.18
	国	25.59	25.03	48.15	48.56	61.19	8.58	173.83	14.43

■学校体育関係事業と参加人数（平成30年度）

事業区分	事業名	参加人数（人）
柏市小中学校 体育連盟主催事業	柏市小学校陸上競技大会	1,250
	小学校ミニバスケットボール教室	1,000
	柏市中学校総合体育大会	4,000
	柏市中学校ロードレース大会	200
	柏市中学校駅伝大会	450
	柏市中学校新人大会	3,500
	中学校総合体育大会団結式	400
近隣市町共催事業	東葛飾地方中学校駅伝大会	300
	西部地区中学校柔道大会	12
各種大会	千葉県中学校総合体育大会	370
	全日本中学校通信陸上千葉大会	100
	千葉県新人大会	350
	千葉県中学校駅伝大会	44
	各種全国大会	13
各種関東大会	25	

(2) 部活動の活性化の支援

専門外の指導者や部員数の多い部活動を中心とした支援のために、142名の「外部指導者」の派遣を行っています。

■部活動外部指導者の派遣実績（平成30年度）

	小学校	吹奏楽部	実施回数
1	柏第一小	1	8
2	柏第二小	2	36
3	柏第三小	2	48
4	柏第四小	1	18
5	柏第五小	2	48
6	柏第六小	0	0
7	光ヶ丘小	0	0
8	土小	1	24
9	富勢小	0	0
10	田中小	2	48
11	田中北小	1	6
12	土南部小	1	24
13	柏第七小	4	24
14	柏第八小	0	0
15	酒井根小	1	24
16	西原小	2	24
17	旭小	2	6
18	藤心小	2	40
19	中原小	2	40
20	酒井根西小	2	48
21	高田小	2	30
22	名戸ヶ谷小	1	20
23	増尾西小	0	0
24	逆井小	1	24
25	富勢東小	1	20
26	豊小	0	0
27	酒井根東小	4	48
28	旭東小	1	10
29	松葉第一小	1	24
30	花野井小	0	0
31	松葉第二小	2	48
32	富勢西小	0	0
33	十余二小	1	24
34	風早南部小	1	24
35	風早北部小	2	48
36	手賀西小	0	0
37	手賀東小	1	24
38	高柳小	2	23
39	大津ヶ丘第一小	2	48
40	大津ヶ丘第二小	0	0
41	高柳西小	2	30
42	柏の葉小	1	24
	合計	53	935

	中学校	運動部	文化部	実施回数
1	柏中 (PJ)	3		150
2	柏二中 (PJ)	5		200
3	土中	4		96
4	富勢中	4	1	120
5	田中中	4		96
6	光ヶ丘中	2		48
7	柏三中	5		120
8	柏四中	4	1	120
9	南部中	5		115
10	柏五中	5	1	120
11	酒井根中 (PJ)	3	1	176
12	西原中	4		96
13	逆井中	3	1	96
14	松葉中	4	1	120
15	中原中	3	1	96
16	豊四季中	4	1	120
17	風早中	3	2	115
18	手賀中 (PJ)	3		150
19	大津ヶ丘中 (PJ)	6		192
20	高柳中	3	2	120
	合計	77	12	2,466

※学びづくりフロンティアプロジェクト校(PJ)は学校からの申請より80回増で実施した。

(3) 保健教育の充実

健康に関する現代的な課題に対応し、心の健康づくりや薬物乱用防止教育等の健康教育を推進しています。

また、消防局救急課との連携により平成24年度より開始した「ジュニア救命士養成講習」は、30年度は市立小中学校63校中44校（小学校40校、中学校4校）で実施しており、いのちの大切さや救命法の重要性について、子どもたちが体験を通じて学習する機会として定着しています。

■児童生徒の健康診断の結果（平成30年度）

区分	小学校				中学校				
	男(人)	割合(%)	女(人)	割合(%)	男(人)	割合(%)	女(人)	割合(%)	
在籍者数	11,236	—	10,776	—	5,026	—	4,860	—	
視力1.0未満の者	3,240	28.8	3,835	35.5	2,293	45.6	2,606	53.6	
歯科	処置完了の者	2,776	24.7	2,424	22.4	866	17.2	1,009	20.7
	未処置のある者	2,606	23.1	2,335	21.6	839	16.6	719	14.7
尿(陽性者)	104	0.9	248	2.3	131	2.6	223	4.5	
心臓疾患異常者	120	1.0	116	1.0	71	1.4	43	0.8	
寄生虫卵保有者	—	—	—	—	—	—	—	—	
肥満傾向の者	74	0.6	45	0.4	15	0.2	9	0.1	
脊柱胸部異常者	40	0.3	66	0.6	56	1.1	232	4.7	

■感染症発生状況（平成30年度）

(単位/人)

区分	小学校	中学校	合計	区分	小学校	中学校	合計
風疹	1	0	1	インフルエンザ	5,767	1,753	7,520
水痘	477	14	491	手足口病	79	4	83
麻疹	0	0	0	異型肺炎	153	21	174
流行性耳下腺炎	67	5	72	ヘルパンギーナ	30	1	31
伝染性紅斑	178	3	181	咽頭結膜熱	26	2	28
溶連菌感染症	1,363	212	1,575	感染性胃腸炎	517	153	670
流行性角結膜炎	103	16	119	その他	106	27	133

■小中学校児童生徒（男子）の体位平均値（国・県・市 平成30年度）

年齢	身長(cm)			体重(kg)		
	国	県	市	国	県	市
6	116.5	116.9	116.9	21.4	21.4	21.5
7	122.5	123.0	122.9	24.1	24.1	24.3
8	128.1	128.9	128.5	27.2	27.4	27.3
9	133.7	134.0	133.9	30.7	30.8	30.7
10	138.8	139.4	139.2	34.1	34.5	33.9
11	145.2	145.4	144.9	38.4	37.9	38.1
12	152.7	153.2	152.4	44.0	43.6	43.2
13	159.8	159.5	159.5	48.8	47.7	48.2
14	165.3	165.9	165.4	54.0	54.1	53.1

■小中学校児童生徒（女子）の体位平均値（国・県・市 平成30年度）

年齢	身長(cm)			体重(kg)		
	国	県	市	国	県	市
6	115.6	116.0	115.5	20.9	21.1	20.8
7	121.5	121.6	121.5	23.5	23.5	23.4
8	127.3	127.8	127.2	26.4	26.2	26.5
9	133.4	133.9	133.6	30.0	30.0	29.9
10	140.1	140.1	140.1	34.1	33.5	33.7
11	146.8	147.6	146.8	39.1	39.1	38.4
12	151.9	152.1	151.9	43.7	43.4	43.3
13	154.9	155.3	154.8	47.2	47.3	46.6
14	156.6	156.7	156.6	49.9	49.8	49.6

■学校管理下傷害別事故発生件数（平成30年度）（単位／件）

区分	小学校	中学校	合計	区分	小学校	中学校	合計
骨折	230	289	519	割創	1	0	1
捻挫	232	283	515	裂創	12	8	20
脱臼	35	25	60	擦過傷	16	8	24
挫傷・打撲	394	321	715	熱傷・火傷	5	5	10
挫創	67	24	91	歯牙破折	18	7	25
切創	13	7	20	その他（負傷）	25	21	46
刺創	5	8	13	その他（疾病）	69	101	170
				合計	1,122	1,107	2,229

■学校管理下活動別事故発生件数（平成30年度）（単位／件）

区分	授業中	特別活動中	行事中	課外指導中	休憩中	通学中	合計
小学校	260	101	33	143	487	98	1,122
中学校	267	36	41	646	88	29	1,107
合計	527	137	74	789	575	127	2,229

■学校管理下場所別事故発生件数（平成30年度）（単位／件）

区分	校舎内				校舎外			学校外	合計
	教室等	体育館等	廊下	その他	運動場	プール	その他		
小学校	178	181	36	71	523	5	6	122	1,122
中学校	69	367	24	34	430	5	7	171	1,107
合計	247	548	60	105	953	10	13	293	2,229

(4) 食育の推進

子どもの食に関する理解を深め、望ましい食習慣の形成に結びつけられるような態度を育成し、偏った栄養摂取などに起因する生活習慣病などを防止するとともに、家庭での食事の意義などについても理解するよう、食に関する指導を行っています。

4 子どもの安全の確保の充実

(1) 防災、防犯及び交通安全教育の充実

犯罪や交通事故、災害等から自分の身を守るため、学校では、学校安全計画に基づき、様々な安全教育を行っています。

防犯教育では、柏警察署等による防犯教室や不審者対応訓練等を実施しました。また交通安全教育では、柏警察署や市交通施設課による交通安全教室の実施、千葉県主催する自転車教室や自転車免許証制度事業の活用を図りました。防災教育では、様々な場面を想定した実効性のある避難訓練等を消防署等と連携し定期的に行いました。

(2) 学校や地域における安全対策の強化

①学校の安全対策の充実

児童生徒の安全確保のために、全ての学校で組織的・継続的な防犯対策が講じられています。平成25年度より年次計画に従って各小中学校に防犯カメラの設置を進めていたところですが、平成29年度に計画を前倒しして全校設置を完了し、平成30年度は、その効果性を高めるため「防犯カメラ作動中」の看板を表示しました。また、児童生徒の学校生活における安全管理、学校環境の安全管理の徹底や緊急時の危機管理対応マニュアル等の整備、教職員等の安全管理体制の充実を図っています。

②地域と連携した安全対策の強化

保護者、PTA、地域関係機関・団体、地域住民が学校安全ボランティア（スクールガード）として、児童生徒の安全確保のため、各学校や地域の実態に即して組織的に活動を行っています。平成30年度からは、地域要望に応じた防犯用品等の配付などの地域活動の支援を推し進めることで、地域社会全体で、子どもたちを見守る地域ぐるみの学校安全体制の充実を図っています。

③情報発信及び関係機関との連携の充実

保護者や地域、学校関係者に児童生徒の安全に関する情報を提供するため、スクールメールシステムによる情報配信を行っています。

また、学校内外における児童生徒の安全確保のため、柏警察署や市防災安全課等の防犯関係機関との連携を図っています。

通学路の安全対策については、「柏市通学路交通安全対策プログラム」に基づき柏市通学路交通安全対策推進会議や危険箇所等の合同点検を通して、安全施設等ハード面の整備について、関係各部署と連携した対策を行っています。

5 学校施設の適切な整備及び管理

(1) 校舎等改修整備

ア 屋内運動場長寿命化改良

建設から40年以上経過している学校施設の老朽化対策として、光ヶ丘小学校、大津ヶ丘第一小学校及び高田小学校の屋内運動場について、構造体の補修、照明設備の更新等をするなどの長寿命化改良工事を実施しました。

イ トイレ改修

「汚い」「暗い」「臭い」「怖い」「壊れている」の5K解消及びバリアフリー化のため、十余二小学校、高田小学校、増尾西小学校、酒井根小学校、名戸ヶ谷小学校、柏第四小学校、富勢西小学校、酒井根中学校、南部中学校、及び富勢中学校（小学校7校、中学校3校）のトイレの改修工事を実施しました。

ウ 受変電設備改修

機器の老朽化による停電事故を防ぐために、富勢西小学校、松葉第二小学校及び南部中学校の高圧受変電設備の改修を実施しました。

エ 給食室改修

酒井根西小学校の給食室を全面的に改修し、衛生面や機能面を向上させました。

オ 校舎外壁及び屋上防水工事

校舎の老朽化対策として、豊小学校、酒井根中学校、柏第三中学校の校舎外壁及び屋上防水工事並びに風早中学校及び南部中学校の屋上防水工事を実施しました。

カ 下水道切替工事

酒井根東小学校で浄化槽を撤去し、公共下水道への切替工事を実施しました。

(2) ブロック塀等対応

大阪北部地震によりブロック塀が倒壊した事故を受け、小学校15校にある投てき板等を撤去しました。

(3) 柏市立学校施設個別施設計画策定

各校の現地調査により劣化状況を把握し、それを踏まえて今後40年間の整備費用及びスケジュールを作成し、施設整備を計画的に行うための方針を決定しました。

(4) 校舎長寿命化改良工事等設計業務委託

モデル校である土小学校について、昨年度策定した同校校舎長寿命化改良基本計画方針を基に、実施設計を行いました。令和元年度から2か年で工事を行います。工事の完了は令和3年3月を予定しています。

(5) 学校規模の適正化

義務教育の公平性の確保、一定の教育水準の維持及び向上を図るために、これまで、通学区域の変更、仮設校舎の建設、学区外就学の弾力化や制限により、適正規模化を図ってきました。今後も児童生徒数の推移に注視し、継続して取り組んでいきます。

(6) 給食施設、調理機器の老朽化対策

老朽化した給食施設、調理機器について大規模な修繕・更新を計画的に行います。また、調理機器の中で修繕の対応が困難な重要物品については、計画的に順次入替を行います。

■平成30年度大規模修繕、調理機器の更新

- ・酒井根西小学校
- ・学校重要物品の更新（真空冷却機等）
- ・学校給食センター 受変電設備（キュービクル）更新

(7) 安全で安心な学校給食の提供

市内63校の小中学校の内52校は単独自校調理方式で、献立は各校に配置している栄養士が自校の実態に沿って作成しており、いずれも安全でおいしい給食を実施しています。

旧沼南町区域の11校（風早南部小を除く）は共同調理場方式で、献立は給食センターに配置している栄養士が施設の環境に応じて作成しており、できるだけ手作りを心掛け、安全でおいしい給食を1日約4,900

食提供しています。

■給食費（平成30年度）

区分	単独自校調理方式		共同調理場方式	
	小学校	中学校	小学校	中学校
年間給食回数	180回	176回	188回	188回
1食当たり単価	265円	330円	260円	305円
年額	47,700円	58,080円	48,880円	57,340円

①単独自校調理方式（旧柏市の区域）

小学校においては昭和39年、3校での単独自校調理方式による完全給食を開始して以来、現在は旧柏市の区域の全34校及び風早南部小学校で、週5回（米飯3回以上）、年間180回以上の給食を実施しています。

中学校においては平成5年度から6年度にかけて行われた2校（柏三中、南部中）における試行期間を経て順次実施校を増やし、平成13年度からは、旧柏市の区域の全17校で、週5回（米飯3回以上）、年間176回以上の給食を実施しています。

②共同調理場方式（旧沼南町の区域）

昭和53年に学校給食センターを開設し、小学校7校及び中学校4校で、週5回（米飯3回以上）、年間188回の学校給食を実施しています。

■学校給食センターの施設概要（平成31年3月31日現在）

施設名	所在地	電話	施設の概要
学校給食センター	大島田 305-2	04-7192-1140	開設 昭和53年5月 総床面積 1,165㎡ 事務室、検収室、下処理室、調理室、洗浄室、ボイラー室、会議室、車庫、簡易倉庫等

③小学校給食の民間委託

学校給食の効率的な管理運営を行うため、旧柏市の区域の全中学校と学校給食センターでは調理業務委託方式で実施しています。

さらに、平成14年度から旧柏市の区域の小学校給食の調理業務を直営から委託に順次切り換えを行うとともに、新設校等についても調理業務委託方式を採用しています。平成30年度末現在で33校が調理業務委託方式となっています。

Ⅲ 学校の組織力・教職員の力量を高める

1 様々な教育課題に対応できる力量を備えた教職員の育成

(1) 指導主事によるきめ細かな支援

「自他を尊び支え合い、学び合い、高め合う教育」の実現を目指し、市内小中学校教職員研修の支援、さらには、各校で実施する授業研究や理論研修を支える指導を行っています。例として、教職員の指導力向上を目指して、校務分掌や経験年数等に応じた研修事業を企画・運営しています。他に、授業研究や経験者研修を支える要請訪問、パーソナルサポートを通して、学校や教職員ひとりひとりのニーズに応じたきめ細かな支援を行っています。

(2) 研究指定校に対する支援

研究指定校は、柏市教育振興計画や学校教育指導の指針を具現化するために、市内小中学校における研究を支援し、研究成果を市内各学校に提供することを目的として柏市教育委員会が指定しているものです。各指定校は、教育の今日的な課題の検証や指導法の開発など、組織的・継続的な校内研究活動の充実に努めています。研究指定校に対しては、研究に必要な予算措置とともに、指導主事による研究支援を集中的に行います。これにより、当該指定校全体の授業改善意欲を向上させ、研究を活性化させます。

■研究指定校と研究テーマ

学校名	教科・領域等	研究主題、テーマ等	指定年度	指定期間
柏市立田中小学校	理科・生活科	生き生きと学び合う子の育成～問題意識が生まれる過程の追究～	平成29～平成31年度	柏市教育委員会
柏市立酒井根小学校	全教科	深い学びの授業の創造～課題解決につながる対話の工夫～	平成31年度	柏市教育委員会
柏市立中原小学校	国語	主体的に学ぶ意欲を高め、表現力をはぐくむ国語科の指導はどうあるべきか～思いや考えを豊かに伝え合う児童の育成～	平成31～平成32年度	柏市教育委員会
柏市立高田小学校	特別の教科 道徳	よりよく生きる力を育み、豊かな心を持つ児童の育成	平成30～平成31年度	柏市教育委員会
柏市立名戸ヶ谷小学校	国語・算数	どの子も自分の考えを伝え合い高め合える学習を求めて～主体的に伝え合い高め合える単元作りの工夫～	平成31年度	柏市教育委員会
柏市立酒井根東小学校	全教科・領域 (教育課程編成)	資質・能力育成をベースとした教育課程の創造～東小プラン2020の創造～	平成31～平成32年度	柏市教育委員会
柏市立旭東小学校	国語・算数	よりよい学級集団を構成するための伝え合う力の育成	平成31～平成33年度	柏市教育委員会
柏市立富勢西小学校	算数	学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図る実践～授業研究と柏市の施策をとおして～	平成29～31年度	柏市教育委員会
柏市立手賀東小学校	算数・ICT活用	算数のつまづきを解消するための、タブレット端末によるR-PDCAサイクルの確立	平成31年度	柏市教育委員会
柏市立高柳小学校	特別の教科道徳・外国語活動	素直で心優しい柳っ子の育成～道徳・外国語活動を通して～	平成31年度	柏市教育委員会
柏市立大津ヶ丘第二小学校	特別の教科道徳	よりよく生きようとする児童の育成～道徳教育を通して～	平成30～平成31年度	柏市教育委員会
柏市立柏の葉小学校	外国語活動・外国語科	英語を聞こう・話そう・楽しもうとする態度を育成する指導のあり方～イングリッシュタイムを通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成をめざして～	平成30～平成32年度	柏市教育委員会

柏市立田中中学校	理科	自ら調べ, 自ら考え, 自己表現できる生徒の育成	平成30 ～平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立南部中学校	国語, 数学, 理科, 社会 デジタル教科書活用	主体的・対話的で深い学びの実現のための教科指導の工夫～生徒指導の三機能を生かした協働学習～	平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立柏第五中学校	全教科・特別の教科道徳	基礎基本を身につけ, 知識を活用する学習指導のあり方の探究 (アクティブラーニングの実践)	平成30 ～平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立西原小学校	学校運営協議会	地域とともに歩む学校づくりを目指して	平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立西原中学校				
柏市立柏の葉小学校	学校運営協議会	「地域とともにある学校づくり」～学校と保護者・地域住民等の協働を通して～	平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立柏の葉中学校				
柏市立柏第二中学校	「学びづくりフロンティアプロジェクト校」 各学校の「学びづくり」に向けた取組を支援することにより, 学校の経営力と教職員の実践意欲を高め, 児童・生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の育成を図る		平成29 ～平成31 年度	柏市教育委員会
柏市立柏第三小学校				
柏市立柏第五小学校				
柏市立酒井根中学校			平成29 ～平成31 年度	
柏市立酒井根小学校				
柏市立酒井根西小学校			平成30 ～平成32 年度	
柏市立酒井根東小学校				
柏市立柏中学校			平成30 ～平成32 年度	
柏市立柏第一小学校				
柏市立旭東小学校			平成30 ～平成32 年度	
柏市立手賀中学校				
柏市立手賀西小学校			平成30 ～平成32 年度	
柏市立手賀東小学校				
柏市立柏第三小学校	「算数科授業力向上事業」 柏市学力・学習状況調査の結果分析をもとに, 教育委員会と学校とが一体となって, 算数科のつまづき解消を目指した授業改善に取り組み, 児童の学ぶ意欲と学ぶ習慣の育成を図る		平成30 ～平成32 年度	柏市教育委員会
柏市立旭小学校				
柏市立酒井根西小学校				
柏市立逆井小学校				
柏市立旭東小学校				
柏市立花野井小学校				
柏市立風早南部小学校				
柏市立風早北部小学校				
柏市立手賀東小学校				
柏市立柏第二小学校	「学習者用コンピュータ (タブレット PC) 活用事業」 4年生から6年生の学級に学習者用コンピュータを配備し, 該当校と教育委員会が一体となって, 学習者用コンピュータを活用した授業づくりを支援し, 効果的な活用のあり方の検証を図る		平成31 ～平成33 年度	柏市教育委員会
柏市立土小学校				
柏市立手賀中学校	福祉教育推進校		平成29 ～平成31 年度	
柏市立手賀西小学校				
柏市立手賀東小学校				
柏市立西原中学校	「学力・学習状況」検証事業	検証協力校	平成31 ～平成32 年度	千葉県教育委員会
柏市立柏第三小学校	食育	学校給食研究指定校 地域における食育指導推進事業	平成30 ～平成31 年度	千葉県教育委員会
柏市立名戸ヶ谷小学校	食育	学校給食研究指定校 地域における食育指導推進事業	平成30 ～平成31 年度	千葉県教育委員会
柏市立田中中学校	オリンピック・パラリンピック教育推進校		平成31 年度	千葉県教育委員会
柏市立酒井根小学校				

(3) 研究成果等の共有化

学習指導要領及び柏市教育施策に即した教育活動の充実のため、下表のような調査研究事業を実施しています。また、成果物を紙媒体・電子媒体で関係機関に提供し、共有・活用できるようにしています。

調査研究事業名	研究成果等の共有	
	成果物	共有形態
情報教育担当者連絡会（年2回）	I C T活用実践事例 63 事例	教育研究所 ホームページ 及び冊子
幼児教育共同研究（年12回）	幼児教育共同研究のあゆみ ー運動能力調査報告書ー	教育研究所 ホームページ 及び冊子
幼保小連携研究委員会（年4回）	小学校はてなパンフレット 柏市版接続期カリキュラム	教育研究所 ホームページ 及び冊子
中学校社会科副読本編集委員会（4回）	中学校用 「郷土かしわ」副読本	教育研究所 ホームページ 及び冊子

(4) 職務・キャリアステージに応じた市独自の研修の実施

教員として採用後11年間にわたる研修体系をつくり、また専門性を高める研修を実施することで、指導力のある教員を育成し、若年層教員の増加等への対応を目指しています。

■基本研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
小中初任者研修	使命感、学習指導、生徒指導、授業力アップ研修等	18回
小中1年経験者研修	学習指導、学級経営、授業実践等	1回
小中2年経験者研修	学習指導、学級経営、授業実践、教育課題研究等	2回
小中5年経験者研修	学習指導、リーダー研修、授業実践等	2回
小中6年経験者研修	自己課題への振り返り、授業実践、教育課題研究等	2回
小中中堅教諭等資質向上研修	リーダー研修、学習指導、生徒指導、教育課題研究等	8回
特別支援教育 新任担当教員等研修	教育課程の編成 障害特性に応じた指導・支援のあり方等	5回

■専門悉皆研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
司書教諭研修	学校図書館の活用法等	3回
外国語主任研修	外国語教育担当者としての資質向上等	3回
特別支援教育管理職研修	一人一人のニーズを踏まえた教育の在り方	1回
特別支援教育 コーディネーター研修	同上	1回
人権尊重教育研修	人権尊重教育の現状と課題	1回
小動物飼育研修	飼育の仕方や管理等	2回
事務職員研修会	事務職員としての資質向上等	8回
保健主事研修会	保健主事の役割と資質向上等	2回
養護教諭研修会	養護教諭としての資質向上等	8回
栄養士研修会	栄養士としての資質向上、献立研究等	12回

■専門希望研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
学校経営研修	学校経営ビジョン，組織経営力の向上等	1回
情報活用研修	授業，校務処理に生かせるICT活用等	16回
英語スキルアップ講座	外国語指導技術の向上	2回

■特別研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
麗澤大学連携講座	道徳に関する知識，理解を深める研修	1回
千葉大学連携講座	環境等に関する知識，理解を深める研修	1回
開智国際大学連携講座	社会に関する知識，理解を深める研修	1回
東京大学連携講座	理科に関する知識，理解を深める研修	1回
夏季研修講座	教育課題や教職員のニーズに応える研修	6回
ゲートキーパー養成講座	自殺予防におけるゲートキーパーの役割	1回

■その他の研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
キャリアアップ研修	専門性や教育的実践力の向上	3回
免許状更新講習 (必修領域・選択必修領域)	教員に求められる最新の知識・技能の習得 (夏季研修講座・キャリアアップ研修・情報活用研修と合同で実施)	8回

2 組織的な学校運営による学校の総合力の向上

(1) 管理職の育成，教務主任，研究主任等の力量向上

■基本研修（平成30年度）

講座名	内容	実施回数
新任校長研修	学校経営，管理等	5回
2年目校長研修	学校経営，管理等	1回
新任教頭研修	学校経営，管理等	5回
新任教務主任研修	学校経営，管理等	2回
教務主任研修	教務主任の役割，教育課程，教育課題等	3回
研究主任研修	研究主任の役割，校内研修体制づくり，教育課題等	3回

(2) 学校評価の充実

学校では，学校評価を実施し，学校運営の改善・充実を図っています。学校評価は，学校内部の教職員にとどまらず，保護者や地域住民の信頼に応えるため，保護者や学校評議員など学校関係者からの評価も取り入れています。

平成28年度から平成30年度は，柏市立全小中学校と市立高等学校において実施されました。各学校では，評価結果から課題を明確にし，次年度の教育活動の改善に生かしています。また，教育委員会では，冊子「学校評価システムの構築に向けて」を作成，配布し学校評価の充実を図るとともに，各学校の改善策に対する支援に努めています。

(3) 家庭，地域の声を生かした学校づくり

平成14年度より，学校が保護者や地域住民と連携協力して教育活動を行うため，学校評議員制度を導入しました。平成30年度は，市内全ての小中学校及び市立高等学校で，委嘱した学校評議員の数は延べ460人にのぼりました。

各学校では，学校の様子を伝えるため評議員に授業や行事に参観していただいたり，学校運営の改善のため，意見をいただいたりしています。この制度を積極的に活用し，地域と学校が一体となった教育活動，教育環境の改善に努めています。

■学校評議員連絡協議会（平成30年度）

日時	会場	参加者数	内容
6月30日	沼南庁舎	64人	・学校評議員制度について ・各学校での評議員としての活動の様子や課題について，情報交換

(4) 個性的な学校づくりの支援

学校における様々な教育課題の解決や創意工夫に満ちた特色ある学校づくりのため，校長が自主的，自立的に学校運営をするマイプラン事業を実施しています。

■事業実績（平成30年度）

主な事業	具体例	小学校数	中学校数	合計
情操教育	・音楽鑑賞，演劇鑑賞，伝統芸能等による豊かな心の育成(小) ・各種体験教室等による子どもの夢を育む教育(小)	28	4	32
学力向上対策	・学力向上支援員等の活用による算数・英語等の学習支援(小，中) ・学生を活用した算数の基礎学力の向上(小) ・地域の人材や教育実習生を活用した英語，数学の放課後学習会開催(中)	20	9	29
音楽教育	・専門講師による合唱，演奏指導(小) ・合唱コンクールの開催及び実施に向けた特別指導(中)	17	7	24
体育科の充実 (体力・体育の充実)	・NPO団体による体育指導(小) ・外部指導者による部活動の充実と活性化(中)	13	7	20
キャリア教育	・専門講師を活用して学ぶ意欲の向上，将来の夢を育む(小) ・職場体験学習，茶摘み等の伝統行事を生かした教育(中) ・米づくりを通して農作業の体験学習(小)	5	8	13

自然環境教育	・地域の里山を生かした農業体験学習の実施（小） ・農作物栽培や花づくりによる環境学習（中）	7	1	8
地域社会教育	・校区内の河川を題材に，専門家や地域ボランティアとの体験学習（小） ・地域の伝統芸能の継承事業（中） ・地域の人材を活用した環境・キャリア教育を融合した活動（小）	4	6	10
生徒指導・特別支援 教員支援	・特別支援サポート（小） ・Q-Uテストを活用した生徒指導（小） ・教職員に対するカウンセリング（中）	4	0	4
学校安全対策	・学校危機管理に対応した安全教育の推進と環境整備（小） ・防災学習及びミニ集会の実施（中）	1	0	1
国際理解教育	・中国，メキシコ，タイ，フィリピンの方々との交流事業	1	0	1
合計		100	42	142

(5) 学校法律相談の充実

柏市立小・中・高等学校における法律問題への対応について，教育委員会が委嘱した顧問弁護士による法律相談を行い，諸問題の早期解決，学校運営の安定に役立てるための制度で，平成21年4月1日から実施しています。近年の学校におけるさまざまな法律問題について，校長等の学校関係者が直接弁護士に相談し，具体的な指導・助言を得ることにより，学校が抱えているトラブルの拡大を防ぎ，早期解決を図るための有効な手段となっています。

この制度の活用により，学校の負担を軽減し，学校が本来取り組むべき教育活動に専念することができるよう，教育委員会として支援を行っています。また，教職員のみならず児童生徒のより良い教育環境を維持するための大きな支援策にもなっています。さらに，法律相談の場に原則として教育委員会管理主事が同席し，内容を把握することにより，問題解決の手法という情報を共有化し，教育現場に還元するという効果も期待されています。

■学校法律相談実施件数

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
18件	29件	17件	25件	8件	10件	14件

IV 家庭・地域に根ざした学校をつくる

1 家庭と地域と学校が一体となった教育の推進

(1) 学校支援体制の充実

①学校支援ボランティア

柏市では、平成20～22年度に、文部科学省が主管し千葉県から委託された「学校支援地域本部事業」を実施しました。本事業は、学校を支援する地域の方々をボランティアとして組織し、効果的な学校支援を行おうとするものでした。この実績を踏まえ、中学校区を基本単位とした学校支援地域本部の設置を推進しています。また、平成25年度より学校支援コーディネーター連絡協議会を開催するなど、学校支援の充実に向け事業を進めています。

現在、学校では、地域の特性を活かした様々な形で保護者や地域の方々によるボランティア支援を受けています。交通安全指導、読み聞かせなどの学習支援、校内美化・環境整備等の活動があり、現在延べ4,500人近くの方が学校支援ボランティアとして登録しています。教育委員会としては、ボランティア活動に対しての保険に加入し、活動の充実を図っています。

②放課後子ども教室

平日の放課後に小学校の余裕教室等を利用してステップアップ学習会（補充学習）、夏休みに青少年センター等を利用して夏休み子ども教室（体験型講座）を実施しています。

■放課後子ども教室（平成30年度）

会 場	内 容	参加者数 (延べ)
柏 第 一 小 学 校	ステップアップ学習会	1,821人
柏 第 二 小 学 校	ステップアップ学習会	1,139人
酒 井 根 西 小 学 校	ステップアップ学習会	567人
大津ヶ丘第一小学校	ステップアップ学習会	1,057人
柏 第 六 小 学 校	ステップアップ学習会	4,805人
花 野 井 小 学 校	ステップアップ学習会	732人
田 中 北 小 学 校	ステップアップ学習会	2,241人
増 尾 西 小 学 校	ステップアップ学習会	1,063人
高 柳 西 小 学 校	ステップアップ学習会	1,220人
柏 第 八 小 学 校	ステップアップ学習会	784人
西 原 小 学 校	ステップアップ学習会	930人
柏 第 三 小 学 校	ステップアップ学習会	1,232人
富 勢 西 小 学 校	ステップアップ学習会	709人
土 小 学 校	ステップアップ学習会	4,153人
大津ヶ丘第二小学校	ステップアップ学習会	991人
逆 井 小 学 校	ステップアップ学習会	530人
田 中 小 学 校	ステップアップ学習会	302人
土 南 部 小 学 校	ステップアップ学習会	948人
高 田 小 学 校	ステップアップ学習会	844人
柏 第 四 小 学 校	ステップアップ学習会	1,251人
柏 第 五 小 学 校	ステップアップ学習会	2,189人
富 勢 小 学 校	ステップアップ学習会	817人
酒 井 根 小 学 校	ステップアップ学習会	647人
中 原 小 学 校	ステップアップ学習会	951人
豊 小 学 校	ステップアップ学習会	1,935人
酒 井 根 東 小 学 校	ステップアップ学習会	2,871人
旭 東 小 学 校	ステップアップ学習会	853人
松 葉 第 一 小 学 校	ステップアップ学習会	874人
松 葉 第 二 小 学 校	ステップアップ学習会	1,871人
高 柳 小 学 校	ステップアップ学習会	628人
旭 小 学 校	ステップアップ学習会	1,082人
藤 心 小 学 校	ステップアップ学習会	1,659人
十 余 二 小 学 校	ステップアップ学習会	1,213人

風早南部小学校	ステップアップ学習会	190人
柏の葉小学校	ステップアップ学習会	1,569人
柏第七小学校	ステップアップ学習会	1,862人
光ヶ丘小学校	ステップアップ学習会	275人
名戸ヶ谷小学校	ステップアップ学習会	930人
富勢東小学校	ステップアップ学習会	212人
手賀東小学校	ステップアップ学習会	472人
青少年センター等	夏休み子ども教室（ダンスを楽しもう、将棋を楽しもう、絵の具で技法遊び、書道作品制作、プラバンキーホルダーづくり、絵画を楽しもう、書写教室、算数教室、たのたのサイエンス倶楽部、「箱庭動物園」、楽しい折り紙教室、科学実験教室、天びんはかりを作る！、水道水はどうやってできるの？、おこ事をひいてみよう！、こどもパソコン IchigoJam でプログラム入門！、かるたで遊ぼう！、scratch でプログラミングを体験しよう！等）	936人
合 計		51,355人

③地域の教育機関・団体との連携

柏市には多様な専門分野を持った大学やNPO団体があります。こうした大学等の協力により、パソコンを活用したフィールドワークを実践するなど、効果的な学習指導を行っています。

■市民との協働事業（平成30年度）

団体名	内容
柏市帰国・外国人児童生徒日本語と学習支援の会（教科学習支援分科会）	市内の小中学校に在籍する授業を理解することが困難な帰国・外国人児童生徒に対して、放課後、学校において教科学習支援を行う。また、土曜日に公共施設等で教科学習支援の学習会を行う。

(2) P T Aや青少年健全育成団体への支援

①P T A

小中学校のP T A相互の連絡や共通する課題の研究・討議及び問題解決のため、柏市P T A連絡協議会を組織しています。

■P T Aの状況（平成31年3月31日現在）

区分	P T A数	会長職（人）			在籍児童生徒数（人）	会員数（人）			
		男	女	計		保護者会員	教師会員	賛助会員	計
小学校	42	37	5	42	21,978	17,453	1,325	0	18,778
中学校	20	17	3	20	9,758	8,927	685	8	9,620

②青少年健全育成団体への支援等

青少年関係機関及び団体の育成指導及び活動の支援を行っています。

■青少年団体（平成31年3月31日現在）

団体名	団体数	会員数	団体名	団体数	会員数
青少年健全育成推進連絡協議会	17団体	34人	スカウト連絡協議会	12団体	390人
青少年相談員連絡協議会	20団体	180人	学校警察連絡協議会	1団体	177人
子ども会育成連絡協議会	35団体	2,102人	少年補導委員連絡協議会	1団体	131人
少年野球連盟	29団体	1,124人			

【青少年健全育成推進連絡協議会】

青少年を健全に育成するため、市内の小中学校区ごとに組織されています。設置目的は、第一に市や関係機関の青少年対策を地域に浸透させるための推進母体となること、第二に青少年対策の情報源となること、第三に地域の実情に応じた適切な事業を主体的に実施することです。

■地区青少年健全育成推進協議会の主な活動（平成30年度）

地区	活動内容
柏第一	ふれあいコンサート, 地域パトロール, ふれあい広場, さわやかあいさつウィーク
柏第二	防犯パトロール, 地域パトロール, 広報紙「あい」発行, ふれあい音楽会
柏第三	ふれあいコンサート, 会報「青少協だより」発行, ふれあいフェスティバル
柏第四	三世代ふれあい運動会, リーダーキャンプ, 広報「ふれあい」発行
柏第五	ふれあい体験学習, 遊びのフリーマーケットと屋台村, ふれあいコンサート
松葉	ふれあいむかしのあそび, 地域パトロール, スポーツ大会
南部	広報「ともしび」発行, 夏休みお楽しみ映画会, 地区4校合同演奏会
光ヶ丘	剣道大会, 広報「青少協だより」発行, 地区パトロール, お楽しみ企画
酒井根	音楽の集い, 「お料理教室」開催, 「動物愛護教室」開催
富勢	八朔相撲, サマースクール, 体験教室（料理教室・創作教室）
田中	地区内パトロール, 「Tanaka 夢フェスティバル」, 広報「クローズアップ」発行
西原	ふれあいデイキャンプ, 広報「青少協だより」発行, ふれあいコンサート
土	手賀沼ウォーク, 地域パトロール, 音楽まつり, 広報「はぐくみ」発行
逆井藤心	サマーフェスティバル, 地域パトロール, 広報「ふれあい」発行
中原	地域パトロール, ゆずり葉コンサート, 広報「ゆずり葉」発行
豊四季	地域パトロール, おはようウィーク, トライアングルコンサート, ドッジボール大会
手賀	地域パトロール, エコウォーク in 手賀, ふれあいコンサート

【青少年相談員連絡協議会】

地域の青少年健全育成の担い手として、昭和38年10月に発足しました。現在、県及び市から委嘱された180人によって構成され、各中学校区を活動基盤としています。主な事業としては、中学生を対象に市内約30kmを徹夜で歩く「オーバーナイトハイク」や小学生を対象とした「わんぱくこども祭り」などがあります。

■オーバーナイトハイク（平成30年度）

日時	コース	参加者数
8月18日午後8時 ～19日午前7時	柏駅（サンサン広場）～北柏～富勢東小～利根川サイクリングコース～柏市立柏高校～十倉二小～柏中学校	市内中学生・青少年相談員ほか820人

■わんぱくこども祭り（平成30年度）

開催日	場所	参加者数
11月24日 11月25日	青少年センター	市内小学生・青少年相談員ほか 延べ1,796人

【新成人のつどい】

新たに成人となった方々を祝い励ますため、成人の日を開催しています。平成3年からは、これまでの「成人式」から「新成人のつどい」に名称を改め、式典及び行事を通して、社会人としての自覚の醸成や郷土意識の高揚に努めています。また、新成人による実行委員会を組織し、企画から当日の運営まで自らの手で実施しています。

開催日	行事内容	新成人者数	参加者数	参加率
平成31年1月14日	・市長式辞 ・新成人代表の言葉 ・クイズ大会等（ビデオ上映） ・抽選会	4,277人	2,789人	65.2%

(3) 青少年の非行防止と相談体制の充実

青少年の健全な育成を期し、少年の補導活動を総合的に推進するための拠点として、昭和41年に少年補導センターが開設されました。補導活動、相談活動、広報啓発活動、環境浄化活動を積極的に展開し、非行の未然防止に努めています。また、関係機関・関係団体と連携をとりながら地域ぐるみの非行防止活動の推進を図っています。

①補導活動

柏駅周辺の繁華街での補導を実施するとともに、少年補導委員が中心となって市内各地域の実情に応じた活動を行い、早期に青少年の非行化の防止を図っています。また、夏季・冬季休業中、市立中学校の体育祭・卒業式時も補導活動を行っています。

【街頭補導】

平日の午前、午後、薄暮、夜間に柏駅周辺の繁華街や青少年のたまり場となりそうな場所を巡回し、怠学や喫煙を見つけたときは声をかけて止めるように指導します。

■少年補導の状況（平成30年度）

区分	学生・生徒（人）					有職者（人）	無職者（人）	合計（人）
	小学生	中学生	高校生	大学生	各種学校			
怠学	1	5	159	0	0	0	0	165
喫煙	0	2	5	1	7	12	4	31
その他	41	2	0	0	0	0	0	43
合計	42	9	164	1	7	12	4	239

【サイバーパトロール】

市内学校の児童生徒を対象に不適切な投稿は無いか定期的に検索し、発見した場合で学校名を特定出来たときは、当該学校に通報します。

■サイバーパトロールの状況（平成30年度）

区分	投稿内容の例	投稿者（人）				合計（人）
		小学生	中学生	高校生	その他	
レベル1	ソーシャルネットワークサービスのアカウント登録	0	1,074	2,984	0	4,058
レベル2	実名掲載、誹謗中傷、飲酒喫煙	0	8	0	0	8
レベル3	自殺企図、犯罪予告、暴行恐喝	0	0	0	0	0

②相談活動

青少年の問題や悩みに対し、温かく適切な助言・指導を行い、青少年自身が解決を図れるように援助しています。また、研修により相談担当者の資質を高めるとともに、必要に応じて関係団体・関係機関と連携をとっています。

【やまびこ電話柏】

青少年の悩みの相談窓口であり、親身になって相談に応じています。性、家庭親子関係、交友、学業、進路などについての相談が寄せられています。

■やまびこ電話柏受理件数（平成30年度）

区分	青少年からの相談（件）									成人からの相談（件）				合計（件）
	小学生	中学生	高校生	大学生	専門学生	有職少年	無職少年	その他	小計	保護者	成人一般	その他	小計	
学業・進路	0	3	21	2	0	0	0	0	26	6	0	0	6	32
非行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性	0	27	127	28	0	0	1	6	189	0	1	9	10	199
身体	0	3	50	0	0	0	0	0	53	1	0	0	1	54
異性	0	0	4	0	0	0	0	1	5	1	0	1	2	7
交友	4	5	16	0	0	0	0	0	25	14	0	0	14	39
家庭親子関係	2	3	6	2	0	1	0	0	14	7	0	1	8	22
性格	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
子育てしつけ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	5
家出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

仕事	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2
教師不適切	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	5	6
不登校	1	2	2	0	0	0	0	0	5	9	0	0	9	14
いじめ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	13	0	0	13	14
問い合わせ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	3	4
その他	2	1	44	8	0	0	0	8	63	2	0	36	38	101
合計	10	46	272	40	0	2	1	15	386	67	1	47	115	501
(参考) 無言														254
(参考) 悪戯														0

【少年相談】

青少年の不良行為等の問題行動で悩みを持っている保護者，教員等又は少年本人から，電話や来所により相談を受けています。

■少年相談の状況（平成30年度）

区分	相談 総数 (件)	対象者学職別内訳 (件)							相談者別内訳 (件)		
		小学生	中学生	高校生	大学生	有職少年	無職少年	その他	保護者	学校	本人・その他
学業・進路	48	46	1	1	0	0	0	0	24	6	18
非行	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
性	8	3	5	0	0	0	0	0	1	7	0
健康・身体	4	2	2	0	0	0	0	0	2	0	2
異性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男女交際	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不良交友・交友	23	9	14	0	0	0	0	0	4	2	17
家出	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
暴力	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
喫煙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
飲酒	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
シンナー・薬物乱用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金銭乱費持出し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
刑罰法令に触れる行為	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭・親子生活全般	29	23	3	3	0	0	0	0	15	1	13
被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いたづら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教師不適応	2	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0
不登校	22	17	3	2	0	0	0	0	21	1	0
いじめ	7	3	2	2	0	0	0	0	7	0	0
仕事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
問い合わせ	6	0	5	1	0	0	0	0	2	3	1
その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	153	103	38	12	0	0	0	0	80	20	53

【生徒指導巡回相談】

市立中学校を訪問し，生徒指導上の問題について情報交換や相談活動を行い，各学校と少年補導センター等との連携を一層強化し，学校への支援体制を整えています。

【いじめeメール相談】

いじめに係る児童生徒からの相談や通報を電子メールで受け付け，本人又は保護者が希望する場合には，学校に相談内容を通報すると共にいじめ解消のための助言や指導を行います。

■いじめeメール相談の状況（平成30年度）

区分	相談 総数 (件)	相談者別内訳 (件)					
		本人				保護者	その他
		小学生	中学生	高校生	大学生		
いじめ	2	1	0	1	0	0	0
その他	8	2	1	3	0	0	2
合計	10	3	1	4	0	0	2

【STOP i t（ストップイット）相談】

いじめに係る相談等をアプリケーションを通じて匿名で受け付け、学校と連携して、いじめの早期解消のための助言や指導を行います。

■STOP i t（ストップイット）相談の状況（平成30年度）

相談 総数 (件)	相談内容別内訳 (件)						
	本人					他人 いじめ	その他
	い じ め	部 活 動	ネ ッ ト 関 連	教 師 不 適 応	相 談 問 合 せ		
165	37	1	7	37	38	10	35

③広報啓発活動

広報紙で、補導件数、相談件数、講演実績、行事予定を情報提供しています。また、市内の中学校を中心にネットモラルや非行防止の啓発を行っています。

④環境浄化活動

地域における青少年健全育成環境の浄化を積極的に進めるために、青少年のたまり場の健全化、青少年健全育成協力店の巡回等の活動を行っています。

(4) 家庭教育推進団体等支援事業

幼稚園、保育園、こどもルーム、小・中学校、高校に在籍する児童生徒等の保護者等で組織するPTA、保護者会又は父母の会等及びかしわ地域学びの事業者連絡会に加盟する企業の職員研修において、申し込みのあった家庭教育の推進を目的とする事業に対して経費の支援を行いました。

■主な事業内容（平成30年度）

※事業数は延べ数（事業を複数回実施している学校あり）。

主な事業	具体例	幼保 数	小学 校数	中学 校数	小・中 合同	合 計
いのちの講座	家庭における性教育の指導等について、命の大切さについて	0	24	0	0	24
各種講演会	思春期の子どもの心身の発達、食文化、アンガーマネジメント、子どもを守るための応急処置方法、食育	3	5	0	0	8
	合計	3	29	0	0	32

(5) 「みんなの子育て広場」支援事業

学校・家庭・地域が連携し、子育て中の保護者等に対し、情報収集・交換や、子育てについて気軽に相談できる機会を設けることで、家庭教育の大切さを再認識してもらう場を提供する事業です。平成30年度は、市内全小学校42校で取組みを実施しました。

(6) 保護者の経済的負担の軽減

①就学援助

経済的理由のため就学困難な児童生徒の保護者に対して、児童生徒の教育の機会均等の実施を図るため、就学援助を行っています。

■就学援助費の種類及び支給状況（平成30年度）

（単位／人，円）

		学用品	新入学用品	入学準備金 (※)	修学旅行	校外活動	P T A会費	計
就学前	人数	-	-	183	-	-	-	
	金額	-	-	7,429,800	-	-	-	7,429,800
小学生	人数	1,779	120	298	307	324	1,189	
	金額	24,887,590	4,872,000	14,125,200	6,336,802	4,145,017	3,444,833	57,811,442
中学生	人数	1,093	52	-	361	329	883	
	金額	27,571,870	2,464,800	-	20,504,537	11,653,959	3,047,459	65,242,625

（補足）※・・・入学準備金として、小中学校入学の前年に新入学用品費の早期支給を行っています。

(7) 学習習慣の形成に向けた啓発

平成22年度に教員用の家庭学習指導資料を各学校に配付し、平成24年度には、保護者用の家庭学習指導資料を配付しさらに、平成26年度には家庭学習で活用できる学習用W e bサイトを作成し公開しました。